平山郁夫シルクロード美術館ニュース
Hirayama Ikuo Silkroad Museum News
No. 02
平成17年10月1日発行

＜開催中＞

平山郁夫の絵画とアフガニスタンの至宝
～流出文化財を守れ～

2005年7月9日(土)―12月11日(日)

ゼウス神像左足
前3世紀 アイ・ハヌム出土 大理石
彫刻のすばらしさのみならず、
大きさに圧倒されます。

【会場】 当館 本館および別館
【開館時間】 10:00～17:00(入館は16:30まで)
【休館日】 火曜日(祝日の場合は開館)、
7～9月は無休
10月からは毎週火曜日が
休館となります。但し、
祝日の場合は開館しています。
【入館料】 一般1,000円、高校生・大学生700円、
小・中学生500円(毎週日曜日は無料)、
障害者 無料(介護者は1名まで500円)
※70歳以上は100円割引
※団体(20名以上)は各100円割引

【主催】 (財)平山郁夫シルクロード美術館、
(財)文化財保護・芸術研究助成財団、
山梨日日新聞社・山梨放送、絲綱社
【後援】 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、
韮崎市教育委員会、南アルプス市、
甲斐市、小淵沢町、NHK甲府放送局、
テレビ山梨、エフエム富士、
平山郁夫美術館
【協賛】 キリンビール、ANA

アフガニスタンではタリバーン政権下に遺跡や博物館で略奪が行われ、多くの文化財が国外へ流出しました。ユネスコ親善大使でもある平山郁夫画伯はアフガニスタンから流出した文化財を〈文化財難民〉として保護することを提唱し、日本国内で百三十七点の文化財が保護されました。現在、アフガニスタンの首都カーブルでは博物館の修復が終わり、遺跡の調査も進められています。流出文化財が新しいアフガニスタン政府に返還される日もそう遠くないでしょう。

当館では保護された百三十七点のうち、九十九点の文化財を展示し、アフガニスタンの文化を紹介すると共に、アフガニスタンを描いた平山郁夫の絵画と貴重な写真資料によって内戦前と今日のアフガニスタンを対比し、文化財保護の大切さとそれに対する支援をあらためて訴えます。

平山郁夫欧州写生絵巻
―イタリア・ローマ編―

2005年10月5日(水)―12月11日(日) 本館二階コーナー展示

昭和三十六(一九六一)年秋に、第一回ユネスコ・フェローシップの留学生に選ばれた画家平山郁夫は、「東西宗教美術の比較」をテーマとして、翌年、昭和三十七年十一月一日に最初の目的地イタリアに旅立った。時に三十二歳であった。

のちに平山郁夫はこの旅を「古代、ルネッサンス、近代と、ヨーロッパ文化に接し、大変なものを学び、教えられた旅であった」と語り、この絵巻物を「記念の旅絵日記」と述べている。

この旅から外国の文化を通して日本を見ることの重要さを学んだ平山郁夫は、やがて日本文化の源流を求めて壮大なシルクロードへの旅に出ることになる。

今回展示される絵巻物は、平山郁夫のシルクロード世界への第一歩とも云うべき記念碑的かつ珠玉の作品集である。

蒐集日和（2）

館長
平山美知子

美術館に展示されている一つ一つが、人との出会いや私達と何かしらつながりがあって集まってきたものです。

一九六八年七月から八月にかけて平山と私は二人では初めての海外旅行に出発しました。当時、アフガニスタン、パキスタンなど中央アジアへの旅行は少なく、旅行社も行き方が分からない頃のことでした。これは消失した法隆寺金堂壁画の再現模写班に加えていただいていた平山がその年の三月、三号壁を一人で仕上げたばかりで、二人での海外旅行はこれが最初で最後と思っていましたから、法隆寺壁画の源流といわれているインドのアジャンターの壁画とアフガニスタンのバーミヤンの大仏の壁画を見たいと思ったからです。

インドは夏は五〇℃を越える暑さで、初めての旅行には無理という事で止めにしましたが、その他の国も決して楽な旅行ではありませんでした。日本と正反対のような国々でしたが、初めて日本を離れて、それぞれに重い歴史を感じさせられ、人々の一生懸命に生きている姿にうたれました。平山は旅の成果を次々に発表し、多くの賛同を受けたことで大いに力づけられました。

その翌年、私達はインド美術の大家、高田修先生の団に加えていただき、インド旅行をすることになりました。生涯に唯一度と思っていた海外旅行が次々に続けられたのも自然のなりゆきだったのですが、それも何かに導かれているように思ったものです。

その旅行は毎日（新聞社）移動教室といって、インド美術に熱中している人達の集まりで二十数人いたと思います。インド美術の事など全く分からない私はその一行の熱心さに煽られた感じでしたが、本当に良い勉強になりました。旅行後、一行が時々集まり、旅行の思い出に花を咲かせるのが楽しみでした。そんな時に、パキスタン、アフガニスタンを旅行してガンダーラの像を持ってきた青年が、高田先生に見ていただきたいと来たことがあります。日本で見るガンダーラの仏像も素晴らしいものでした。

何も分からない私でしたが、その仏像の素晴らしさにひきこまれ、母が亡くなったあとだったので、母の供養のために一つ買うことにしました。平山は、自分の家にその様なものがあるとゆっくり写生できると喜んでいました。そこで、平山の勉強になるならと、ガンダーラの仏像を買うことに熱中した時もあります。このような中に偽物というものも時々あります。真贋の区別を調べることもよい勉強になりました。

ガンダーラをはじめ、大きなもの小さなもの、その時々に種類は様々ですが、美術品の価値は大小にかかわりないと思っています。私達のコレクションはダイヤモンドのような価値とは違い、そのものがたどってきた歴史に意義があると思っています。そして、何百年何千年も人の手に受け継がれてきたもの、土の中に埋まって出土したもの、それぞれに人の思いがこもっているように感じられるのです。私達は何かしら語りかけてくるようなものがよいものだと思っています。

仏陀像頭部 クシャン朝時代 2～3世紀 パキスタン（ガンダーラ）出土

「シルクロードの仏たち」展 好評のうちに閉幕

四月一日(金)にスタートした「シルクロードの仏たち」展。八ヶ岳南麓がみずみずしい若葉につつまれるなか閉幕をむかえました。今回の展覧会では緻密で完成度が高いガンダーラのレリーフ「燃燈仏授記(予言)」やラピス・ラズリの青色が美しいキジル千仏洞の壁画「菩薩像断片」などが注目を集めました。

また、平山郁夫画伯の新作「シルクロード行くキャラバン」三部作(現在、展示中)には、誰もが足を止めてしばし見入り、悠久のシルクロードに想いを馳せていたようです。シルクロードの大作で展示室を埋め尽くすという「大シルクロード構想」を聞いた来館者の一人は、「今から心待ちにしています。次回この美術館を訪れる楽しみが増えました」と期待に満ちた様子で語ってくれました。

新収蔵品紹介
New Permanent Collection

中央に大きな車輪を載せた円柱が立てられています。この車輪は仏陀の教え(仏法)を象徴する「法輪」で、柱の手前に置かれた空席の玉座が仏陀の存在を暗示し、説法の場面を表しています。さらに、玉座の両側に二匹の野生動物が控えていることから、仏陀が初説法した鹿野苑(ろくやおん)の場面と解釈されます。このように仏陀を人の姿ではなく、象徴を用いてその存在を示すというのはインドの伝統的な手法であり、柱頭にライオンを載せた円柱は、アショーカ王が鹿野園(現在のサールナート)に建てた法勅柱(ほうちょくちゅう)を模していると思われます。

周囲には蔓草様の蓮華、欄循(らんじゅん)風の柱、開花文などの装飾を施しています。この石版は仏塔(ストゥーパ)などを荘厳していたものの一部で、南インドを代表する仏教遺跡の一つ、アマラーヴァティー出土と伝えられています。

＊現在、展示中

初転法輪図
2～3世紀 インド(アマラーヴァティー)出土
石灰岩 高91.0cm

小中学生のための総合体験学習

当館では、美術をより深く理解していただくため教育普及活動にも積極的に取り組んでいます。小中学校の総合学習の場として展示室を開放することもそうした活動の一環であり、一級の美術品に触れることで児童・生徒が自らの感性を磨き、自己実現の楽しさを知ってもらいたいと考えています。

また、美術館を見学するだけでなく、事前学習、館内での創作活動、そして、作品発表を通して、美術館を身近な存在として感じられることでしょう。

実施時期
3～6月、10月～3月の火曜日(休館日)
※資料のご請求、ご質問は美術館まで。

賛助会のご案内

賛助会は美術館の活動を支援するとともに会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。
なお、皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持・管理などに使用されます。

1）年会費

個人会員	1口	10,000円
家族会員	1口	15,000円
法人会員	1口	100,000円

年会費には消費税が含まれます。口数に制限はありません。家族会員は2名様までとします。ただし、会費は寄付免税の対象となっておりませんので、あらかじめご承知おき下さい。

2）会員募集の期間

会員の申し込みは随時受け付けております。会員証の更新は毎年7月とし、12月から3月までにご入会の方は、初年度の年会費は半額となります。また4月～6月のご入会の方は翌年6月まで有効です。

3）会員の特典

○会員証を発行します。
・個人会員 1枚　・家族会員 2枚　・法人会員 5枚
○ 入館料は無料となります。
○ 展覧会図録がお受け取りになれます。
○美術館ニュースをお届けします。
・個人会員 1部　・家族会員 1部　・法人会員 5部
○特別内覧会にご招待します。
○当館主催の講演会、講座へ優先的にご案内します。
○ミュージアムショップにて会員割引が受けられます。

4）申込方法

入会をご希望の方は申込用紙に必要事項をご記入のうえ、美術館または事務局にご郵送いただき、所定の銀行または郵便局の口座に会費をお振込みください。美術館または事務局に直接お申し込みいただくこともできます。申込用紙は美術館受付に置いてあります。美術館または事務局にご請求していただいても結構です。詳しくは美術館または事務局にお問い合わせください。

ラクダがやって来た!

4月30日より本館エントランスホールにラクダの模型が陳列されています。東京都三鷹市の中近東文化センターから寄贈されたもので、高さ2メートル25センチ、ほぼ実物大です。実際に乗ることはできませんが、熱砂を越えて旅したシルクロードのキャラバンを実感していただけるでしょう。

2006年 展覧会予定

平山シルクロード・コレクションより

2006年3月11日（土）～6月26日（月）

「煌めく布～金更紗と金糸織～」展

インド、インドネシアの印金更紗や金糸の織物を中心に海のシルクロードの染織品を展示します。詳細は次号をお楽しみに。

2006年7月1日（土）～12月17日（日）

「シルクロードのきらめき」展（仮題）

正倉院文化の源流、ペルシア、ソグド、唐の文化を伝えるコレクションを展示。ササン朝時代の銀器・ガラス器をはじめ、ソグドの錦（断片）、隋唐の俑、古裂など。

*両展覧会とも、関連講演会を予定しております。詳細は次号に掲載します。

平山郁夫の絵画

2005年春の「シルクロード行くキャラバン（らくだ隊）」三部作につづく、大シルクロード構想の第2弾作品（四曲一雙）を展示予定。乞うご期待!

■学術研究助成はじまる

財団法人平山郁夫シルクロード美術館では、国際交流の一環として、若手によるシルクロード関連の研究の助成を行っています。募集初年度の今年は5件の申請がありました。選考の結果、以下の3名による研究に対してそれぞれ35万円の助成金を交付しました。

●安藤房枝（名古屋大学大学院博士課程）
中国北魏期小規模石窟の図像構成—雲岡石窟及び龍門北魏窟との比較を中心に
●川崎建三（創価大学シルクロード研究センター）
中央アジアにおける仏教美術品のデータベース化への基礎研究
●包 慕萍（パオ ムピン）（東京大学生産技術研究所）
新疆・青海の回教関係の都市建築調査—シルクロード東西のイスラーム建築比較

*来年度の研究助成公募は5月に予定しています。

シルクロードの響き

9月23日、シルクロードの歌姫オクサーナ・ステパニュックコンサートが、本館2階の平山郁夫作品室内で催されました。画伯の絵を背景に奏でられた音と歌は、画伯はじめ詰めかけた多くの人たちに至福の一時を与えてくれました。

オクサーナさんはウクライナ共和国出身、国立ウクライナ・チャイコフスキー音楽院音楽科及び器楽科民族楽器バンドゥーラ専攻を首席で卒業。ローマ法王、高円宮妃殿下の前で演奏、ロシア国際コンクール（2001年）など、数々のコンクールで優勝をおさめた国際的アーティストです。

財団法人 平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第2号　平成17年10月1日発行
発行/財団法人平山郁夫シルクロード美術館
〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6 Tel 0551-32-0225
URL http://www.silkroad-museum.jp